

# OZU DISCOVERY CORNER

©IR(国際交流員) マシュー・サイバート Wow!

vol.06 Dumpling Soup

国際交流員マシュー・サイバートと大津町の人々との交流を通して、いろいろな町の魅力を発見していくコーナーです！今回は、熊本の郷土料理「いきなりだご汁」の魅力を体験レポート！大津北中学校で行われた郷土料理教室に突撃取材しました。

## ～大津町食生活改善推進協議会の皆さん～

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、食を通じた健康づくりの輪を広げるためさまざまな活動をしています。残されてきた大切な郷土料理を後世に伝える食育活動として、今回は中学生にいきなりだご汁の作り方を教えました。



1①2輪切りにしたからいもをそのままだごで包んだ「いきなりだご」。みんなで集中して包みます③切った根菜類と一緒にゆでて完成。すぐにできて栄養豊富！

## ひとこと質問コーナー



いきなりだご汁が作られるようになったのはなぜですか？

農業など仕事の合間に、その土地にある材料ですぐに作れて、団子だけで食べるより栄養バランスも良く食べごたえもある、そんな昔の人の知恵から生まれた料理です。



大津町食生活改善推進協議会 会長 西スエ子さん

アメリカに調理実習の授業はなかったので大津北中学校2年生と一緒に料理できて楽しかったです。郷土から生まれたいきなりだご汁、それを伝える食生活改善推進員の皆さんと歴史を学ぶ学生の皆さん、素晴らしい活動ですね！味もとてもおいしかったです！



## 輝く人権

連載「人権シリーズ」

### ●問い合わせ

役場人権推進課 人権推進係  
☎096(293)7920



大津町人権啓発推進委員  
いとうかずたか  
伊藤一高さん

今回は、南杉水人権の町づくり協議会の副会長であり、大津町人権啓発推進委員の伊藤一高さんにお話を聞きました。

■南杉水人権のまちづくり協議会  
協議会は南杉水地域において住民が互いに認め支えあう豊かな関係を築くため、住民参加による事業やイベントを行い、明るい地域づくりを推進するため設立しました。平成21年から本格活動を始め現在55人の会員により今年で10年目を迎えます。事業は福祉部会、交流部会が行います。

増進に役立っています。交流部会では荒れてしまった休耕地を借りて、からいもや大豆、納豆を作っています。収穫したからいもは、熊本県立大学の「白亜祭」や天草市の「牛深ハイヤ祭り」に出店し大津町のPRを行っており、また、つつじ祭りや南杉水人権フェスティバルの開催前は、環境美化活動として地域の草刈りを行い、皆さんが気持ちよく過ごせるよう頑張っております。

このような活動は自分たちはもとより、周りの人や社会全体にとっても幸せなこと、大切なことだと思います。

■今後の取り組み  
毎年夏に開催する南杉水人権フェスティバルは、この地域にとつて大きなイベントであり、みんなが参加して思い出を作ることができ、無くてはならないものです。このフェスティバルは南杉水3地区(源場区・つつじ台区・桜丘区)が持ち回りで実行委員長を務めることも定着しました。

今後は南杉水3地区以外からも若い人など多くの方が参加されるように、趣向を凝らしていきたいと思っています。また、協議会会員は10年間あまり変わっておりません。若い人の参加を心待ちにしております。

## 学校での取り組みなどをご紹介 毎月14日は大津町教育の日 ●問い合わせ 役場学校教育課 学務係 ☎096(293)3349

### 各学校の取り組みを紹介 マイクロレポート



美咲野小

「もつとなかよし町たんけん」で、古庄牧場の牛舎を見学して牛と触れ合いながら命の大切さや仕事について学びました。



大津小

毎月1回「子ども防災士活動」を行っています。地域の防災士のご指導のもと、水消火器を使って消火方法を学びました。



大津北小

1年生から3年生でからいも掘りをしました。大きなからいもを掘るのは大変でしたが、たくさん収穫できました。



大津東小

東小校区のどんどこやを行いました。お正月のしめ縄飾りなどを入れた竹の炎は高く舞い上がり、迫力満点でした。



## きらめく男女

連載「人権シリーズ企画⑨」

### ●問い合わせ

役場人権推進課 男女共同参画推進係  
☎096(293)7920



大津町男女共同参画審議会  
みやざきゆきみ  
委員 宮崎幸美さん

私は、大津町に居住して今年で30年になります。広報で目にした男女共同参画審議会の公募で昨年より委員となりました。平成28年に長女が結婚し、出産後も仕事を続けるのと考えを聞き、ワーキングマザーの実態を知りたいと思ったのが応募のきっかけでした。

現在、子育て世代の女性の就業率は大幅に増加し、約7割を超えています。「イクメン」としての父親の協力も昔に比べると多くなってきていますが、保育所などの育児基盤や育児休業制度の整備など、社会全体としての改革はまだ十分とは言えません。「女性活躍推進」と「少子化対策」を両立させるには、まだまだ課題の多い社会だと思います。

私は結婚を機に仕事を辞め、当然のように子どもが幼少期には専業主婦として二人の娘を育てました。昨年長女が

審議会では啓発活動の一つとして、中学生を対象に「朝の読み聞かせ」をしています。毎回、男女共同参画をテーマにした絵本に、生徒の皆さんは真剣に耳を傾けてくれます。短い時間ですが、少しずつでも次世代の人の意識の中に種まきができているように思います。早急に大きな変化は望めなくても、性別を問わずお互いが思いやりと理解を深めながら協力し、活躍できる社会が遠くから来る事を期待しながら、この活動を今後も続けていきます。

が出産し、今は保育園を探しながら春の復職に向けて準備中ですが、果たして仕事と家庭の両立はできるのかと正直不安です。夫婦で協力し職場や地域の助けを借りながら充実した生活を送れるよう親として願うばかりです。

この審議会活動や娘の状況を通して、働く女性に関する記事や本などを目にする機会が増えました。ある政治家がテレビで「これからは女性の時代、私たち男性がもっと良く理解しなければならぬ。女性が活躍できなければ今後の社会の発展はない」との発言に共感し、とてもうれしく思いました。

